

20 . 生命の神と死の女神 (ティルライ)

堂々とした、ミンダナオのティルライの人々は、正解の始まりは、海と空だけが存在し、後は何もなかった、と信じています。

その時、ふたりの強い神様が対等に、何の力の制限も加えられることなく、すべてのものを支配していました。優しい心の持ち主で、公正な素敵なトゥルスは、高い天国の彼の王国に住んでいて、幸福で、調和が取れ、充実して、平和と愛の世界に生きることを、喜んでいました。

暗闇が対照的に、彼には美しく、背が高く、ほっそりとした優雅な双子の妹シノンゴルがいて、濃い黄金と茶色い肌と、長く、絹のような黒檀の髪は、魅惑的な茶色い目をした天使のような顔をして、燃えていました。彼女は、もう一方の死の暗闇の王国に住んで、欲深さ、嫌悪感、痛み、戦争、破壊と死を作るといふ、恐ろしい力を持っていました。

そのためトゥルスとシノンゴルは常に、お互い対立していました。いつでも、トゥルスが良いことをしようとすると、彼の妹はそれを悪いことに変えようとするのです。

一方で、太陽の髪が、東の方で、黄金に輝くような、素晴らしい宮殿に住んでいました。彼の美しい宮殿には、めずらしく、すばらしい庭があり、大きな池や湖、何百もの種類の美しく香りの良い花や、植物や飾られた木があり、特にハスは、太陽がお気に入りの花でした。そして、この穏やかで、平和な環境の中に、魅惑的な、色とりどりの鳥や蝶の大量の群れが、住んでいました。

この美しい庭の中央には、上品で柔らかい大きなシダの木で囲まれて、濃く硬い木に彫られた八つの素晴らしい彫像が立っていました。ティルライの人びとは、これらの彫像を「ケネンタオ」と呼んでいました。

ある日、トゥルスは、太陽の宮殿に行って、素晴らしい庭に座り、色とりどりの蝶が、色鮮やかな花から他の花に飛び回るのを見、さえずっている鳥たちの甘い旋律を聞いていました。

すると、トゥルスは、庭の中央に八つの素晴らしい濃い木製の彫像に気がきました。彼はこれらの優れた芸術品の方に歩いて行き、特に印象的な彫像に触って、その自然美に感嘆しました。彼のやさしい手が滑らかな木を愛撫したので、彫像は内

側から輝き始めました。その硬い木は、ゆっくりと柔らかく、しなやかになって、命を得て呼吸し始めました。平然とした彫像は、ゆっくり目を開け、その濃い肢体を動かし始めました。トゥルスは宇宙で最初の男を作ったのです。

最初の男は太陽の神の美しい庭に住みました。そして、そのような美しいものに囲まれて生活して幸せな間に、彼は宇宙でたった一人の大変淋しい人間であることに、気がきました。

ある日、トゥルスが庭を訪ねて来た時、最初の男は、彼がいかに淋しいか、彼と生活を共に分かち合う人間がいかに必要であるかを、訴えました。

良い神は最初の男の苦しみに、憐れみをかけ、彼の淋しさを緩和する何かをすることに決めました。彼は最初の男の目に手を当てて、深い昏睡状態にしました。トゥルスは手を最初の男の肉体に入れて、彼のあばら骨のひとつを取り出しました。彼がその手を最初の男の体から引き抜くと、肉体の外傷はすぐに癒されました。トゥルスはあばら骨を地面に置き、それに特別の言葉を唱えました。そのあばら骨からもうひとりの人間ができました。この人間はメスであり、宇宙の最初の女性になりました。

最初の男が目を開けると、彼は美しい女性が彼の横に立っているのを見て、驚きました。彼は、自分の願いをかなえてくれたトゥルスに感謝しました。

まもなく、最初の女性は妊娠し、かわいい小さな女の子を産みました。その新しい子どもは、幸せな両親の誇りであり、喜びでした。しかし、その子どもは病気がちで、しばしば、時には何時間も泣きました。両親の努力にもかかわらず、彼らには娘の痛みを治すことはできませんでした。

考えあぐんで、最初の女性は夫にトゥルスのところへ行って会い、忠告をおおごう、と言いました。太陽の神は彼の、二頭の羽のついた白い馬が引く黄金の馬車を、雲の中のトゥルスの王国へすぐに出発しようとしている最初の男に与えました。

最初の男は黄金の馬車に乗って遠くの王国までの空を、彼のできるだけの力で駆けて行きました。彼は強い羽のある馬を鞭打ち、風のように速く走って行きました。

ついに、最初の男は、高い雲の中にあるトゥルスの家に着き、彼の病気の娘について気遣っている神に告げました。心の優しいトゥルスは、青い瓶

フィリピンの神話と伝説

に、特別な魔法の薬を作って、それを最初の男に渡しました。「この薬をお前の子どもに与えなさい。」と彼は言い、「そうすれば、彼女は治るだろう。」と告げました。

最初の男は神に助けを感謝し、出て行こうとしました。「私の悪い妹に気をつけなさい。あいつはお前とお前の家族に害をもたらすから。風のように走って、何があっても止まってはいけない。」

最初の男は、羽のある馬たちを突き動かした、黄金の馬車は雲から空を駆け抜けて、太陽の神の宮殿に向かいました。

その間に、シノンゴルは、彼女の暗い死の王国の中で、彼女の椅子に座って、彼女の特別の鏡を使い、最初の男が行ったことをすべて見ていました。彼女がもし、トゥルススの新しい生き物に、痛みを与えることができたなら、大きな喜びが与えられるでしょう。

悪い死の女神は、恐ろしい悪魔のひとりを経験した彼女の部屋に呼び、ちょうど彼女の兄トゥルススが最初の男に与えたのとそっくりの青い瓶をそれに与えました。すると彼女は恐ろしいマントの悪魔に、彼女の悪い計画を実行するために、追跡させました。

最初の男は、太陽の宮殿へ帰る旅を順調に続けていました。羽のある馬はできるだけ速く飛んでいました。刻々と、最初の男の娘の命を救う、重要な旅が進んでいました。

突然、二頭の翼のある馬は大きな叫びを上げて、恐怖の目と鼻の穴を開いた頭をもたげました。黄金の馬車は空中に震えて止まりました。最初の男は馬の前に恐ろしい悪魔が浮いているのを見ました。その黒いマントは風にひるがえっていましたが、その恐ろしい生き物は最初の男の2倍の大きさで、そのゆがんで変形した体は、それに釣り合いのとれた、とげのある髪がついていて、後ろには鞭打つような尻尾がありました。その傾いた恐ろしい目は赤く輝き、その節くれだった口は、醜い牙の歯を見せるように開き、よだれを垂らしていましたが、額からは長い曲がった角が突き出し、紫の口からは、二つに分かれた長い舌が、出たり入ったりしていました。それは、最初の男が今までに見た中で、最も恐ろしく凶暴な生き物でした。

最初の男は、恐ろしい悪魔におびえる馬たちを動かそうとしました。しかし、彼が振り向いても、悪魔は立って、彼を待っているのです。「お前は私に何をしてほしいのか。」最初の男は聞きまし

た。

悪魔は骨ばった指の、つめのついた腕を出しました。「青い瓶を私によこせ。」と、それは怒鳴りました。

しかし、最初の男は娘の命を救うための唯一のものを渡すわけにはいきません。彼の馬を駆り立てて、悪魔を引き倒しました。しかし、その生き物は、腕と、彼の指先から燃える火の玉を差し出して、おびえる馬たちの前で炸裂させました。馬たちは後ろ足で立って、頭をもたげ、黄金の馬車はひっくりかえり、自分ではどうすることもできない最初の男は投げ出されて、空から下の海に落ちて行きました。

最初の男は水しぶきをあげて、青い海へ落ちて、深い水の中に沈みました。そしてしばらく意識を失っていました。しかし、それから、変えは力を出して水の表面に泳いで戻ってきました。彼には海の表面がみえなくなって、空気を求めてあえいでいました。彼はすぐにポケットの、娘の薬を入れた青い瓶を探しました。しかし、彼にはそれが見つかりませんでした。彼は狼狽して、周りを見渡しました。感謝すべきことに、彼はその大切な青い瓶が近くの水の中に浮いているのを見つけました。彼は喜んでその瓶をつかみ、彼のポケットに戻しました。

彼は上にある空を見あげましたが、彼を襲った恐ろしい悪魔の形跡はありませんでした。彼は大きな口笛を吹いて、羽のある馬たちが彼の所へ駆け下りてきて、黄金の馬車を引いていました。彼はすぐに馬車に登って、大急ぎで太陽の神の神殿への必死の旅を続けました。

感謝すべきことに、最初の男は黄金の宮殿に安全にたどり着きました。まだ、水が滴り落ちていましたが、彼は馬車から飛び降りて、美しい庭へ急ぎました。そこでは、最初の女が心配して、彼を待っていました。彼女は夫に会えて喜び、彼らの娘が大変弱っていることを告げました。

最初の男は微笑み、妻を元気付け、青い瓶を彼女に見せました。「もう心配するな。トゥルススは私に、娘を癒す薬をくれた。」彼は瓶を開けて、妻に渡し、彼女は娘の口にその薬を注ぎました。彼らは子どもを見て、娘の奇跡的な回復を待ちました。しかし、彼らの娘は回復するかわりに、せきを始めて、彼女の体ははげしく痙攣しました。間もなく、彼女は死にました。最初の男と彼の妻は衝撃を受けてお互いを見つめました。

フィリピンの神話と伝説

最初の男が早く海に落ちた時、悪魔は青い瓶を交換していたことを、彼らは気づいていませんでした。トゥルスからの薬の瓶のかわりに、悪い生き物は死の女神からの似たような青い瓶と置き換えたのでした。この瓶には強力な死の毒が入っていたのです。

何日も、最初の男と困惑した妻は、彼らのたったひとりの娘を失ったことを深く悲しんでいました。死の女神はなんでこんな罪のない子を殺すような冷酷なことができるのでしょうか。

妻は夫にもう一度、神トゥルスを探るよう頼みました。今回は、彼らの愛する、亡くなった子どもを適切に埋葬する場所を頼むためでした。

そこでもう一度、最初の男は天の王国へ旅して、トゥルスに、彼らの娘を埋めることのできる安息の場所を頼みました。トゥルスは、彼の悪い妹が人類にもたらした不幸を本当に悲しみました。「残念なことに、彼女の力は、わたしの力と同じくらい強いのだ。」と彼は説明しました。「いつでも、私は良いことをしようとすると、彼女は常に、悪で対抗した行動をする。もし私が楽しみを作ると、彼女は痛みを作る。それが彼女のひねくれたやり方で、私には彼女を止めることのできるものはない。彼女は、我々には、生活の中に、痛みと不幸の挑戦が必要で、それによって、私たちは強いものにされていく、と信じているんだ。だから、私は、それがこのようにずっと続くことを恐れている。」

最初の男の、娘を埋める場所の要求に応じて、トゥルスは彼の兄弟たち、小さな神々、ミカエル、ミントラフィス、メンタイル、そしてオスマル・アリが、世界の四隅から呼び出され、彼らに預言者ナビ・モハンマドを探し出し、彼に土を与えてもらうように頼むことを告げました。

四人の兄弟たちは、預言者ナビ・モハンマドの住んでいる場所へ旅をし、彼らの兄のトゥルスが願った、貴重な土を頼みました。預言者が、人間の娘の死の悲しい物語を聞くと、彼はためらうことなく、四人の兄弟に、彼らが運べるだけのたくさんの土を与えました。

四人の小さな神々は、トゥルスのところに、重い土を運び、彼はその土を世界の中心、コリナと呼ばれる所に置きました。良い神は土を海の中に入れて、特別な儀式を行い、それによって、水から土地の山が現れました。この乾いた地は、地球の表面の四分の一を占めていました。そして、そこに、幼い女の子は、貴重な土の中、安らかに埋め

られました。

これが、私たちが今日知っている地球の、創造のしかたです。

トゥルスは、人間の娘の死を、全く無駄なものにしたくありませんでした。彼は、少女の不必要な死から、彼の力によって、何か良いものを確保しようと決断しました。そして、少女の埋められた体から、生きたものを創造して、新しい土地にそこに繁栄させ、住ませようと決断しました。少女の歯から、トゥルスは最初の稲を育てました。少女の腕からは、最初のパナナの木を育てました。少女の胴からは、動物ができました。少女の体のすべての部分から、すべての種類の植物と動物が育ち、それらはずいぶん新しく植えられた土を覆いました。トゥルスは死から飛び跳ねる命を確保したのです。

シノンゴルは彼女の暗闇の王国で、これらの良いことをすべて、魔法の鏡で見て、大変怒りました。「どうしてあなたはこんなことをするのですか。」彼女は、その座から押しかけてきました。「またあなたは、私に新しい仕事を与えた。私はあなたの作ったものをすべて壊さなければならぬ。それは、あなたが決して勝てない戦いです。」と彼女は呪いました。

その悪い妹は、時間をおくこともなく、直ちに破壊的な脅迫を始めました。彼女は暗い屋敷から外へ出て、彼女の長い黒髪から櫛を取り、小さな少女が埋められた所に投げつけました。彼女が悪い呪文を口にすると、それは簡単に二匹の豚に変わり、それはすぐに増えて、土地のパナナの木を食べました。悪い妹は、土地に繁茂した米の収穫に、つばを吐きました。彼女のサルビアが土を打つと、たくさんの黒っぽいネズミが増えて、米やこの地のほかの沢山の作物を食べました。

シノンゴルは、地に対する激怒の雨を降り続けさせ、昆虫や病気や、伝染病を作って、兄の作った植物や動物をすべて、破壊しようとしてしました。

トゥルスは妹が土地に対して行ったことを見て、彼女に近づき、警告しました。「どうして、私の作ったものを壊して、そんなに喜びを得ているんだ？」と彼は問いました。

シノンゴルは、兄の方を振り向いて、微笑みしました。「私はあなたと同じくらい力を持っているのです。私はあなたの作ったものをすべて破壊するまで続けます。たとえ世の終わりが来ても、あなたはすべての良いものを作り、私は反対に悪いも

フィリピンの神話と伝説
のを作る。」

そして、トゥルスとシノンゴルの命を奪う戦いは、兄が良いものを作り、妹が悪いものを作って、続きました。トゥルスは明るく、暖かな太陽を作り、シノンゴルは冷たく、暗い月を作ったように。すべての美しい植物をトゥルスが作り、シノンガルは、これらの植物を食べる、昆虫や動物を作りました。トゥルスの作ったすべての美しい動物を、シノンゴルの作った肉食動物が、捕獲して、殺すのです。

この生命の神と死の女神の間での善と悪との命をかけたもがきは、今日まで続いています。それによって、地球の自然の美しい均衡が創造されているのです。